

2023

まちあそび部の取り組みが、「ふるさとづくり大賞 地方自治体表彰(総務大臣表彰)」を受けました。 詳細は9ページに掲載



2022

まちあそび部の主な取り組み



2021

なぜ、「まちづくり」改め「まちあそび」なのか。



慶応義塾大学特任准教授・テレビコメンテーター 燕市役所まちあそび部コーディネーター 若新 雄純 さん

「まちづくり」という言葉は平仮名で定着しています。これには理由があるそうです。【街】でも【町】でもない、目には見えない曖昧な概念である【まち】を、みんな楽しく試行錯誤しながらつくっていく、ということなのだそう。 【作る】でも【造る】でも【創る】でもない。ゴールの分からない曖昧な何かを、時には夢中になり、まちのみんなで共有する。残念なことが起きても、そこから何かを見つけ、何かを学ぶ。それが楽しくて、続けたい。つまり、「まちづくり」って「あそび」ってことになるんです。



燕市独自のまちづくり手法、高校生による『燕市役所まちあそび部』。総務省が主催する令和4年度ふるさとづくり大賞において、地方自治体表彰を受けました。今号では、その活動を紹介いたします。

高校生が、まちの人と一緒に まちの資源をつかってあそぶ。

若者による主体的なまちづくりを進める事業「つばめ若者会議」の高校生を対象としたプロジェクトです。大人と協力して、まちが持っている資源をつかった活動を行います。 気になったこと、 やってみたいこと、 やってみたいとわかんないことに挑戦し、あそびを通じて、このまちの新しい発見をしていきます。

まちあそび部のルールは「法律を守る!」のみです。それ以外のルールはなく、普段のあそびのような“ゆるさ”から多くの取り組みが誕生しています。

- 1 燕三条エフエム放送 ラジオ番組「JK のひるやすみ」
2 ゆるキャラバスケット選手権
3 まちあそびブレンドをつくってみた。
4 大河津分水の利活用企画「ゆるゆるキャンプ」
5 大河津分水 100周年スイーツ「河桜記 EPISODE100 ～ドシャッとパンナコッタ～」

QRコードとテキスト: これまでの取り組みの詳細は、つばめ若者会議公式ウェブサイトをご覧ください。



高校生を対象とした新プロジェクト「燕市役所まちあそび部」がスタート

2020



- 大河津分水通水 100周年をテーマに新潟経営大学と連携事業を開始

2019



- 学生を対象としたプロジェクト「燕ジョイ活動部」がスタート
● 燕ジョイ活動部を中心に地域や企業との協働事業を実施

2016
2017
2018



- 「つばめ若者会議」発足
● 未来ビジョン「つばめの幸福論」を作成
● 全国の地域づくりに取り組む人たちの交流イベント「今宵サミットIN燕」を開催

2013
2014
2015

つばめ若者会議 10年の歴史